印象に残った新作家

国枝史郎

けで充分に手腕ある作家だということが感じられました。 舟氏の作はこれ一つしか読んだことはありませんが、これ一つだ いました。 へ飛び付いてから死ぬ迄の物凄い光景等々、実に旨いものだと思っ飛び付いてから死ぬ迄の物凄い光景等々、実に旨いものだと思 テキパキしていて新鮮で要領のよい動的描写(3)橋本が昇降機 本誌五月号の探偵創作の中、小舟勝二氏の作「昇降機」を面白 (1) よく昇降機の性質を知っていて夫れを活用したこと (2) - 四階。 -というよりも夫れ以上に敬服して読みました。 「全体が手堅く、緊密であるのも嬉しく思いました。 客無し。 運転継続 -五 階。 停止」というようなストップ

3 雑誌「苦楽」に掲載された本田緒生氏の時代捕物「夜桜お絹」

印象に残った新作家 無く、こういう時代物にも才気縦横であることが証拠立てられ、 いました。林不忘氏の作とは又別趣の味があり、 て効果的であり、 に一向こだわらずに英語を入れた大胆さも苦にならず、 も私を喜ばせた作でありました。 全体がフックリして 軟一味 のあるのも快く思 自由な筆致もよく、 現代物ばかりで 時代物だの いや却っ かぇっ

思って居ります。兎に角大変な人気であり、人気のあるのは当然 物にしたのは洵に理だと思いました。 至極と思って居ります。 から「『疑問の黒枠』細評」というようなものを書いて見たいと 氏のために祝福した次第であります。 寸鉄殺人的の短篇で盛んに読者を威嚇し 雑誌「苦楽」がこれを呼び 「疑問の黒枠」 は完結して

ていた小酒井博士が、こういう大がかりな、そうして何処となく

偵小説は行詰って居りません。で博士に抗議をして、 問の黒枠」はそれを裏切って居ります。こういう作がある以上探 どうやら行詰まったような 口 吻 を洩らして居りましたが、 はマイクロフォンで……「探偵小説の行詰り云々」と探偵小説が 作ろうとは最初の中は誰もが想像しなかったことでしょう。 ントの時計」を私の気附いた範囲では、何処でも、 号に掲載された懸賞探偵小説甲種当選山口海旋風氏の作「レシデ は失言として取り消しを願うことに致しましょう。 余悠があってフックリしていて、そうして如何にも日本的な作を 少しく時期が遠退きましたが、「サンデー毎日」一月二十三日 まだ誰もが批 如上の言葉 。 博士

「疑

評していなかったのは不思議な事だと思って居ります。 あれは勝

5

印象に残った新作家 第です。 中 のするような荘重 なかったのか、 のその文章(3)必しも古く無いそのトリック(4)持ち重もり 克明描写(2)新鮮で力強くてドッシリしていて、 れた作でもあり又力作でもありました。(1)南洋の風物人情の をしないので、そこで私は呆れ返って、 る作家などには、真似さえ出来ない立派な作でした。 も探偵小説作家には、 堂々たるもので、二十枚三十枚の作などに、浮身をやつして 批評するだろうと、今日迄待っていたのでしたが、 誰もがあの作を読まなかったのか、 前者だとすれば迂濶であり、後者だとすると余り 重 な作風(5)気宇広濶な国際的の味、等々 批評眼が無いということになります。だ 鳥 渡ここで書いた次ちょっと 読んでも価値が解ら 充分玄人的 誰もが批 誰かその

が併し何処かであの作に就いて、 それを私が見落としたというなら、早速頭を下げて了います。 批評をした者があったのだが、 甲賀三郎氏が是にこれ

就いて、 来極わめて親切に且つ妥当な批評をして来た、 批評しなかったということを、 私には鳥渡受け取れませ

底本:「国枝史郎探偵小説全集 全一巻」作品社

2005(平成17)年9月15日第1刷発行

底本の親本:「新青年」

初出:「新青年」 1927(昭和2) 年6月

1927 (昭和2) 年6月

入力:門田裕志

校正:Juki

2014年4月10日作成

9

青空文庫作成ファイル:

このファイルは、インターネットの図書館、

w.aozora.gr.jp/) で作られました。入力、校正、

青空文庫(http://ww

制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

印象に残った新作家

印象に残った新作家

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL http://www.aozora.gr.jp/

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL http://aozora.xisang.top/

BiliBili https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks 青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/ ※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。 http://tokimi.sylphid.jp/